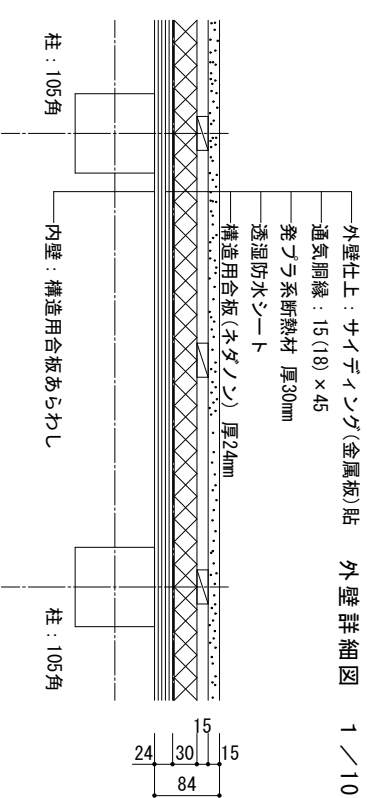
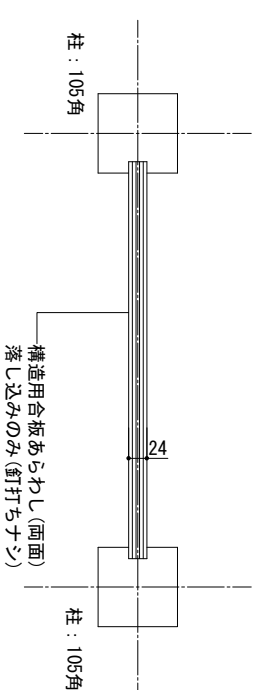


合板打放しのローコスト(長屋)住宅

合板の打放しとは、通常は下地材である構造用合板をあらわしで用いる、いわば化粧を施さないということである。そもそも合板とは、一時、反る、狂う、燃える、材料強度にはらつきがあるということから前時代的なものとして忌避されていた木材(木造)を、RCやS造並みに科学的に扱えるようにするために産み出されたものである。その、木造の復権のために前向きに開発された材料を、無垢材を装ってではなく、そのままの姿で使うことにする。そのための態度であると考えられる。ただし、構造用合板があらわしでありながらそれなりに見えるようにする、つまり仕上げ材としての品質を確保するためにはいくつかなルールのとおり柱や梁などのあらわし骨組みの樹種や大きさを整理すること、接合金物の厚み樹種に気を配ることなどである。ここではさらに、外周壁の屋外側に厚物合板を用いることで間柱を省略し、かつ柱のくほみを室内側から利用できるように考えた。ここでさらに、どこにでも釘が打て、足で蹴っても破れない壁とは、すなわち将来の模様替え(壁仕上げの変更)がしやすいということであり、メンテナンス上も有利であると思われる。



内部非耐力壁詳細図 1/10



3種類の合板壁

外周壁は柱のくほみが有効利用できる立体的な壁、内周非耐力壁は、厚物合板を落とし込みだけの簡便な壁、内部耐力壁は、配線用の空間を兼ねた壁。

